

## 祝 辞

会 長 吉 山 博 吉

本年はOR学会が創立されてからちょうど30周年になり誠に意義深い年を迎えることになりました。創立最初の会長久留島氏より、今は16代目となり、このオペレーションズ・リサーチの調査研究が数多く採り上げられて発表されていることに對し、多くの研究者に衷心より敬意を表する次第であります。

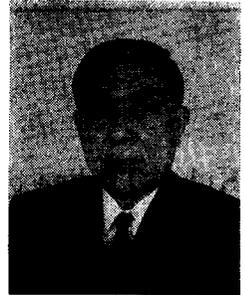
このORというのは第二次世界大戦中にアメリカやイギリスで科学的な軍事運用研究、作戦研究あるいは実戦への応用として生れたものと言われており、その後産業構造の変化発展に必要な科学的管理の有力手段の1つとして、とりくまれたもので、最近は特にこれらの手段あるいは適用の面で企業の経営運用面に幅広く利用されるようになってきております。

特にコンピュータ技術の急速な進展にともないデータ加工分析などが手軽にやれるようになり、またその得られたデータ情報を経営にとりくんでゆくことが即応体勢でやれるようになってきています。そして経営の伸展にともなう経営計画の手段として、さらに経営の方向づけを決める手段としてこのORが将来の有効な考え方となるでめししょう。

すなわち日本の将来における経営理念としてのとりくむ姿にこのORのプロセスがクローズアップしてきており、職務系列の重視される、これまでの運営の姿が今後の厳しい産業構造の変化あるいは一企業内での製品構造の変化が必至となる環境で見直される時期がきたように思われます。

OR的感觉で合理的な意思統一を築き上げてゆくようなことがこれからの時代では受け入れられてゆくと思われ、OR学会でのこういう方向へのリードしてゆく努力が強く期待されてゆくものと

思います。またORの手法が幅広く適用される時代となつてきて、環境対策の解決法の方向づけであるとか都市計画の基本理念などにも適用されるようになりつつあり、学会としても幅広い見方、対応が要望されると思われ本学会の将来のあり方としてもこれらの期待に沿って努力を積み上げてゆきたいと期待しております。



さらに国際的な対応もすでに始まっていますが、日本の将来世界経済の中での運営が必然的な宿命である環境で、まだまだ不十分であります。先進国のみならず発展途上国との連繫も今後の日本の義務であり、時間をかけてもらいこれらの対応を十分やってゆくことが必要であります。

また日本の将来を考える時ORの場のみならず要望されている問題に官、学、産の横の連繫が強く期待されてきております。広く国際環境の中で日本は将来運営されることが、生きる道で、この横の連繫をまだまだ強くしてゆかなければならない現状であります。OR学会の将来とりくまねばならない方向の1つに、これらの問題のさらによりよい形を期待する次第で、学会の運営あるいは論文の採択、またOR学会がお互いの議論を尽し、話し合うことのできる場として有効な働きかけをし、成果をあげることを強く期待する次第です。

OR学会創立30周年の記念に當つて、将来へのさらに堅実な発展と官学産各界の将来へのよい姿のつながりを祈念し、また今後の日本が国際市場の中でさらによりよい姿で存在するための努力を積み上げるように、そしてオペレーションズ・リサーチに対する関心と期待がさらに高まることを祈念し、お祝いの言葉と致します。